

平成 27 年度 生活科教育の現状と課題

部長 渡邊 辰弘

1 各地区における現状（報告書を基に）

県内各地区の生活科部において、次のように大きく 3 つの内容に分けた研修が行われ、本県の生活科教育を推進する上で大きな成果を上げることができた。

(1) 教材（素材）研究

各地区の地域の実態，子どもの様態，教師のニーズに即して，様々な特色ある教材（素材）研究を行い，その可能性を探った。

- 生活科で扱う動物に直接触れて心臓の音を聴くなど，改めて生命の息吹を実感した。
- 草木染めに適した身近な素材を探った。
- 各種木の実の特長に即した事前処理の仕方や遊び方の可能性を探った。

(2) 実技（体験）研修

生活科の学習活動を，教師自身が体験し，子ども目線での指導上の配慮事項を探った。

- 地域特産の野菜を調理することで収穫の喜びを味わった。
- 水生生物や昆虫の採集を行い，採集方法や生物の飼育方法を体得した。
- 身近な材料を活用した「おもちゃ作り」から，工夫，遊び方，かかわらせ方を学んだ。
- ネイチャーゲームで自然に触れながら，指導方法を考え学んだ。

(3) 授業研究（講話・講演含む）

授業公開を通して，事後検討会での協議や指導者の御指導により日々の授業改善を図った。また，大学の教官や教育センター指導主事，学校管理職を指導者として講演会等を実施し，今後の生活科教育の動向等を御指導頂き，生活科教育への認識を深めた。

- 質の高い体験活動が，相手に伝えたい気持ちを高める。また，「伝え合う場」を意図的に設定したり伝達手段（言葉，絵等）を工夫したりすることが大切である。
- 問題解決能力の育成には，子どもの思考を促す単元構成ができなければならない。
- 深い「かかわり」を生むには，班学習や一斉学習を組み合わせた授業構成と信頼関係が保証された日々の学級経営が重要である。
- 今後の生活科の授業改善には，アクティブラーニングの位置づけが鍵である。
- 質の高い「気付き」を生むには，「気付き」の見取り，評価，位置付け，組織化，一般化，課題提示の工夫，言語活動の充実といった教師の働きかけが重要である。
- 「指示」には，「学習活動に直結した指示」と「学習活動を支える指示」があり，指示の数は 5 つ以内が情報過多による混乱を生まない。

2 各地区が抱える課題（報告書を基に）

- 子どもにとって「真の学習課題」「価値ある伝え合い」「深い気付き」「学びを深める単元構成と支援」の在り方と指導方法。
- 地区内の生活科教育の推進を図るための情報共有ネットワーク作り。
- 次期学習指導要領実施を見据えた教材研究，実技研修，授業研究が融合した価値ある研修の在り方とその研修時間の十分な確保。